

イマドキの予防接種

— 後悔先に立たず —

大阪掖済会病院

はたの まさこ
小児科部長 島野 雅子

1) 日本の予防接種の現状

・予防接種に関心を！

予防接種と聞いて、皆さんが一番に思い浮かべるものは何でしょうか？毎年冬になると接種するインフルエンザが一番身近な予防接種でしょうか。3歳位までの子供を子育て中の方なら、ある程度予防接種についての知識があると思いますが、それ以外の方では興味もないという方も多いのではないのでしょうか。

・日本は後進国なの？

医療水準が高く、先進国である日本の予防接種制度は、他の先進国に比べ進んでいると思いますか？実は予防接種に関しては、日本は世界の中で後進国なのです。世界保健機関(WHO)が現在、全世界で定期接種を推奨しているワクチンはBCG・B型肝炎・ポリオ・DPT(ジフテリア/百日咳/破傷風混合)・Hib・肺炎球菌・ロタ・麻疹(はしか)・風疹(三日ばしか)・ヒトパピローマウイルス(HPV)の10種類です。日本で定期接種が行われているのはこのうち8種類で、B型肝炎・ロタは定期接種にはなっていません。この2つは任意接種のため、費用は自己負担となってしまいます。日本小児科学会としても、子供たちが平等に予防接種を受けられるようにこの2種類も定期接種にするよう国に働きかけていますが、まだ時間がかかりそうです。

・後悔しないために

予防接種外来で、よく親御さんから「予防接種をするよりも、実際その病気にかかった方がしっかり免疫がつくのではないか？感染しても軽く済む幼少期に病気になっておいた方が良いのではないか？」と質問されます。これに対して、私はいつも「ウイルス感染症の場合、水痘やインフルエンザ以外は基本的に特効薬が無いのですよ。小さい頃に感染すれば軽く終わると思わないで下さい。重症化し、合併症になることも充分有り得るのです。子供が辛い治療を受けたり後遺症が残ったりしてから、『予防接種を受けさせておけば良かった』と後悔しませんか？」と答えます。

2) 予防接種2題

・ムンプスについて

ムンプスとは“おたふくかぜ”のことで、主な症状は発熱、耳下腺の腫れ・痛みです。

合併症は、無菌性髄膜炎・精巣炎ですが、この他にムンプス難聴があります。この難聴は片耳だけの難聴で、治療しても治りません。ムンプス難聴の発生頻度は、ムンプス患者100~500人に1人の確率と報告されています。1つの小学校に少なくとも1~2人位はムンプス難聴の子がいる、というイメージです。片耳の難聴があっても、小さな子は自覚しにくいため訴えもほとんどなく、また周囲の大人も気づきにくいのです。このため発見が遅れ、就学前健診で初めて指摘されることが多いようです。何も症状がないし、本人にも聞こえが悪いという自覚がないのに、突然『一側性の高度感音難聴』と診断され、かつ、「治らない」と医師に告げられ、更にそれがワクチンで予防できたことを知った際には、親ならわが子にワクチンをしておけば良かったと必ず後悔し、自分を責めることでしょう。現在日本ではムンプスの予防接種率は30%程度といわれています。このため日本では年間100~200万人のムンプス患者が発生しています。わが子をムンプスから守る手段はワクチン接種だけなのです。

・麻疹・風疹について

昨年日本では風疹の流行がみられ、今年は麻疹の流行の兆しがみられます。現在は麻疹・風疹混合(MR)ワクチンの2回接種が定期予防接種となっていますが、<表>に示すように風疹ワクチンを1回も接種していない人も多いため流行が起こるのも当然です。風疹は3日ばかりともいわれて、麻疹の軽いものと認識されているかもしれませんが、非常に怖いウイルス感染です。妊娠初期の女性が感染すると、生まれてくる子供に先天性心疾患・難聴・白内障等の異常を来す恐れがあります。また、風疹はワクチンを1回接種しただけではしっかり免疫がついていない場合があります。風疹ワクチンを1回している女性が妊娠し、その妊娠初期に職場で風疹が流行、女性には風疹の症状はありませんでしたが、生まれてきた赤ちゃんに障害があり先天性風疹症候群と診断された事例が昨年報告されています。大人の風疹は数日で治りますが、先天性風疹症候群として生まれてきた子供は一生障害を背負って生きていくことになるのです。生まれてくる子供たちを守るためにも、麻疹・風疹のワクチン接種を2回していない世代の人達は予防接種を受けて下さい。

3) まとめ

予防接種は子供だけのものではありません。定期接種だけしていれば充分というものでもありません。病気や予防接種に関しての正しい知識を持ち、まず自分そして家族のためにも積極的に予防接種を受けましょう。

<表> 年齢別の風疹ワクチン接種歴の目安

平成14年生まれ以降

平成18(2006)年度から麻疹と共に2回接種制度が導入され、1歳時と小学校入学前1年間幼児に、麻疹・風疹混合(MR)ワクチンが定期予防接種として実施されている。

平成2年生まれ~平成13年生まれ

平成19(2007)年から始まった10~20代を中心とする麻疹の全国流行を受けて、平成

20(2008)年度～平成24(2012)年度までの5年間、中学1年生と高校3年生相当の者にMRワクチンを定期接種として追加実施された。

昭和62年10月1日生まれ～平成2年4月1日生まれ

予防接種法の改正により、生後12～90か月で1回の風疹ワクチン定期接種が開始された。集団接種から個別接種となり接種率が低い世代。

昭和54年4月2日～昭和62年10月1日生まれ

平成5(1993)年に麻疹・ムンプス・風疹混合(MMR)ワクチンが中止され、未接種であった世代。平成7(1995)年の予防接種法改正により経過措置として、この世代に対して平成15(2003)年9月30日の間まで風疹の予防接種が実施されたが、接種率は低いと言われる。

昭和54年4月1日以前に生まれた男性

定期予防接種の機会がなかった。

昭和37年4月2日生まれ～昭和54年4月1日生まれの女性

中学生時に学校で集団定期予防接種を行っていた。

昭和37年4月1日以前に生まれた女性

定期予防接種の機会はなく、自然流行で免疫を獲得すると考えられていた。

大阪掖済会病院

〒550-0022

大阪市西区本田2-1-10

TEL 06-6581-2881

FAX 06-6584-1807

URL <http://www.osaka-ekisaikai.jp/>